

うた「寵児」が企業者であり、それに血を通わせしめ給う「創造主」が銀行信用なのである。

もう一度繰り返そう、シュムペーターの意図は、彼独自の資本主義の理念を、資本主義とは何かということに関する彼の信念を、うち出すことにあった。しかし、幸か不幸かシュムペーターを教祖として奉る信者は意外に少ない。否それどころか、彼の理論が三位一体の「教え」であることさえあまり意識されてはいないように思われる。

〔資料ノート〕

社研受入図書資料一覧

〈寄 贈〉

日本経済新聞社『国会便覧 52年』

岩手県立図書館『増加図書目録 昭和51年』

大曲昌徳『日本のための社会学』中央公論事業出版

農林中金調査部『農林金融統計 1977年』

同 『農林金融の実情 1977年』

清水川・柴沼・近江谷著『経済分析の理論と方法』世界書院

公正取引協会『私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律』

同 『懸賞による景品類の提供に関する事項の制限等の告示及び運用基準』

食品産業センター『昭和51年度版 食品産業総合統計年報』

専修大学図書館『逐次刊行物目録(和文)1976』

同 『逐次刊行物目録(欧文・分類目録)1976』

同 『逐次刊行物目録(欧文・誌名目録)1976』

同 『産業商業会計関係図書目録(和文)1976』

同 『 同 (欧文)1976』

尼崎市『尼崎市史』第6巻(史料編Ⅲ)

Kyojiro Someya "An Introduction to Flow of Funds Accounting" Waseda Univ.

R. J. Barnet & R. E. Müller "The Power of the Multinational Corporations" Simon & Schuster.

Y. Kurabayashi "Studies in National Economic Accounting" Kinokuniya.

(山田一郎氏寄贈)

『社会科学大事典』第1巻—第20巻 鹿島研究所出版会

〈購 入〉

- 『社会政策学会史料集成』第1巻—第12巻 御茶の水書房
久留間鮫造編『マルクス経済学レキシコン』1—9 大月書店
『農地改革資料集成』第7巻 農政調査会
経済資料協議会『経済資料研究』No. 5 (1972.6) ~No. 12 (1977.8)
『経済学文献季報』68・69 (1973.1—4)
OECD “Economic Surveys; Netherlands”
OECD “Economic Surveys; Belgium & Luxembourg”
OECD “Economic Surveys; Yugoslavia”
OECD “Economic Surveys; France”
Marx, Engels, “Gesamt Ausgabe II Manuskript 1861—1863, Apparat”
Nevins & Hill “Ford, vol.1・2・3”

編 集 後 記

今月は池本正純所員から寄稿を得た。シュムパーターの歴史的名著「経済発展の理論」は、池本氏によると資本主義経済発展の要因を分析した本ではなく、資本主義の理念は何かという問いに対するシュムパーター自身の解答を提示した書物であるという。そして資本主義経済の本質は、その発展と変動にあり、発展と変動の具体的様相は新結合であり、新結合の遂行者は企業者、新結合を実行可能にする手段は信用創造である、ともいう。

資本主義の危機が叫ばれてすでに久しい。それは何よりも資本主義的生産の担い手としての企業とそれを支える人間の変質・荒廃に集約的に表われている。ロッキード事件をはじめとして脱税やヤミカルテルなど、大企業体制の腐朽性を示す出来事は、われわれの周囲にあとを絶たない。そして、それらの舞台に踊るあるいは踊らされる経営者管理者の自己疎外ぶり。かれらの姿の、何と「企業家」イメージから遠いことか。プロテスタンティズムの倫理も「新結合」者の誇りも、かれらには無縁のようである。現代資本主義はもはや資本主義であることさえやめてしまったのであろうか。(H. T.)

神奈川県川崎市多摩区生田4764 電 話 (044) 911—8480 (内線33)

専 修 大 学 社 会 科 学 研 究 所

(発行者) 大友福夫
